



Pure Pacific 純No.175 パ Sep.2014

純パの会会報『純パ』第175号

2014年9月27日発行

発行：純パの会 〒161-0032 東京都新宿区中落合3-13-1 塚原方

「夏休み審判学校」と無失点ゲーム3試合 塚原 隆(東京都新宿区)

8月11日(月曜日)、野球殿堂博物館にて「夏休み審判学校！」が開催されるというので足を運んだ。講師は、現在NPBの野球規則委員の井野修氏、NPB審判長の友寄正人氏、NPBの審判技術委員の山崎夏生氏および平林岳氏と豪華な面々だ。

小中学生対象の企画であったが、大人でも十分に楽しめるし、学ぶことも多かった。特に平林岳さんの野球草創期のルールの話は特段面白かった。

「なぜ、カウントはボール、ストライクの順なのか？」

長い間、日本でのカウントは「ストライク、ボール」のカウントが一般的であったが、2010年よりアメリカにならって「ボール、ストライク」の順番に訂正された。カウントは「ボール、ストライク」の順が正しいのである。

それは野球が始まった頃の時代(19世紀中頃)に遡る必要がある。そもそも草創期の野球は、打者が打ちやすい球を投げなければならなかった。そして打者が要求した通りに投げなければ「ボール」がカウントされた。そしてその「ボール」が九つカウントされると1塁に出塁できた。したがって投手が打者を打ち取るという概念はなかったということである。野球は投手が打者を抑えるのではなく、打って楽しむスポーツだということからスタートしている。つまり野球の醍醐味は「打撃戦」ということだろう。



何はともあれ野球における審判というお仕事は苦勞が多く、ストレスがたまる職務だと思う。また機会があれば、このような企画に参加していきたいと思う。

●タイムのコールを説明する平林岳氏

